

アルチバ静注用 2mg アルチバ静注用 5mg

【この薬は？】

販売名	アルチバ静注用 2mg Ultiva Intravenous 2mg	アルチバ静注用 5mg Ultiva Intravenous 5mg
一般名	レミフェンタニル塩酸塩 Remifentanyl Hydrochloride	
含有量 (1バイアル中)	レミフェンタニル塩酸塩2.2mg (レミフェンタニルとして2mg)	レミフェンタニル塩酸塩5.5mg (レミフェンタニルとして5mg)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、全身麻酔用鎮痛剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、痛みを伝える神経組織や痛みの中枢に働きかけ、痛みをやわらげます。
- ・次の目的で、医療機関において使用されます。
成人：全身麻酔の導入及び維持における鎮痛
小児：全身麻酔の維持における鎮痛

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にアルチバ静注用に含まれる成分または他のフェンタニル系化合物（フェンタニル、フェンタニルクエン酸塩）で過敏症のあった人
- ・ナルメフェン塩酸塩を飲んでいる、または飲むのをやめてから1週間以内の人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・ASAⅢ、ASAⅣに分類*される人
- ・衰弱している人、循環血液量が減少している人
- ・重い高血圧症、心弁膜症などの心血管に著しい障害のある人
- ・不整脈のある人
- ・慢性肺疾患など呼吸機能に障害のある人
- ・過去に薬物依存を経験したことがある人
- ・過去に痙攣（けいれん）発作のあった人
- ・気管支喘息の人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

※ASA: American Society of Anesthesiologists (米国麻酔科学会) による、手術を受ける人の全身状態の分類です。

ASAⅢ 重い全身疾患をもち日常の生活が制限されている人

ASAⅣ 命を脅かすような重い全身疾患をもち、日常の生活が出来ない人

○この薬には併用してはいけない薬[ナルメフェン塩酸塩（セリンクロ）]や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○この薬の使用にあたっては、原則としてあらかじめ絶食します。

○アルコールを含む飲食物は、この薬の作用に影響しますので、避けてください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

- ・この薬は注射薬です。
- ・使用量、使用方法などは、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、全身状態を管理した状況のもと医療機関において注射されます。
- ・他の全身麻酔剤を必ず併用して使用されます。

<成人>

通常、成人の使用量は次のとおりです。

・麻酔導入の場合

通常、体重1kgあたり毎分0.5μgの速さで持続的に静脈内に注射されます。気管挿管する際に強い刺激が予想される場合、体重1kgあたり毎分1.0μgの速さで注射されます。

・麻酔維持の場合

通常、体重1kgあたり毎分0.25μgの速さで持続的に静脈内に注射され

ます。最大でも体重1 kgあたり毎分2.0 μ gを超えて注射しません。
浅麻酔時には、体重1 kgあたり0.5～1.0 μ gを2～5分間隔で、静脈内に追加注射されることがあります。

<小児>

通常、1歳以上の小児の使用量は次のとおりです。

・麻酔維持の場合

通常、体重1 kgあたり毎分0.25 μ gの速さで持続的に静脈内に注射されます。最大でも体重1 kgあたり毎分1.3 μ gを超えて注射しません。

浅麻酔時には、体重1 kgあたり1.0 μ gを2～5分間隔で、静脈内に追加注射されることがあります。

・肥満の人（成人ではBMI 25以上の人）では、実際の体重ではなく、標準体重に基づいて投与量が決定されることがあります。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・ この薬の使用に際しては、一般の全身麻酔剤と同様、麻酔開始から完全に麻酔から覚めるまで、全身状態が十分に監視されます。また、呼吸循環への影響が予測されるため、必ず気道確保、呼吸管理などの蘇生設備の完備された場所で、心電図による監視、血圧の測定など、心機能を確認しながら使用されます。
- ・ この薬は、5～10分後には作用が消失します。そのため、この薬の中止前、もしくは直後に鎮痛剤を使用するなど適切な術後疼痛管理が行われます。
- ・ 麻酔の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転や危険を伴う機械の操作などを行わないでください。
- ・ まれにショックあるいは中毒症状を起こすことがあるので、この薬の使用に際しては、十分な問診により全身状態が確認されます。
- ・ 妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・ 授乳している人は医師に相談してください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
筋硬直 きんこうちよく	手を握った後に開きにくい、筋肉のこわばり
換気困難 かんきこんなん	息苦しい、息切れ
呼吸停止 こきゅうていし	呼吸が止まる
呼吸抑制 こきゅうよくせい	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる
低血圧、血圧低下 ていけつあつ、けつあつていか	脱力感、立ちくらみ、めまい、ふらつき、意識の消失

重大な副作用	主な自覚症状
徐脈 じよみやく	めまい、立ちくらみ、息切れ、脈がとぶ、脈が遅くなる、気を失う
不全収縮 ふぜんしゅうしゆく	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加
心停止 しんていし	気を失う
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白(そうはく)、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	ふらつき、息苦しい、動悸(どうき)、全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ
全身痙攣 ぜんしんけいれん	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	脱力感、冷汗が出る、ふらつき、顔や手足の筋肉がぴくつく、疲れやすい、むくみ、体重の増加
頭部	めまい、意識の低下、意識の消失、立ちくらみ、気を失う、一時的にボーとする
顔面	顔面蒼白
口や喉	喉のかゆみ
胸部	息苦しい、動悸、呼吸が止まる、息切れ、呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる
手・足	手を握った後に開きにくい、脈がとぶ、脈が遅くなる、手足が冷たくなる、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹
筋肉	筋肉のこわばり

【この薬の形は？】

販売名	アルチバ静注用 2 m g	アルチバ静注用 5 m g
性状	白色～黄白色・粉末または塊	
容器	バイアル	
容器の形状		

【この薬に含まれているのは？】

販売名	アルチバ静注用 2 m g	アルチバ静注用 2 m g
有効成分	レミフェンタニル塩酸塩	
添加物	グリシン、pH調整剤	

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ヤンセンファーマ株式会社

(<https://www.janssen.com>)

メディカルインフォメーションセンター

電話（フリーダイヤル）：0120-183-279

FAX：0120-275-831